

## S02-3 中毒性副作用の発症機序、誘発要因および回避対策の検討の有用性 ～特に慢性腎臓病に着目して～

○平田 純生<sup>1</sup>

<sup>1</sup>熊本大院薬

中毒性副作用は過量投与によっておこるが、肝代謝型薬物については投与設計に利用できる適切なバイオマーカーがないため、腎機能低下患者の中毒性副作用の発症機序、誘発要因および回避対策の検討の有用性について概説する。常用量投与しても血中濃度が上昇し有害反応が起こる要因として①尿中排泄率が高い薬物、②活性代謝物が蓄積する薬物、③腎で代謝される薬物、④末期腎不全患者で尿毒症性物質の蓄積により非腎クリアランスが顕著に低下する薬物などがある。

医師・薬剤師が薬物の尿中排泄率および患者の腎機能の正確な把握ができていないことが大きな問題であり、特にハイリスク薬を腎機能の低下した患者に、尿中排泄率が高い薬物、あるいは腎機能の低下に伴い血中濃度が上昇する薬物を投与するときには特に重要な問題となる。そこで、本シンポジウムでは主に腎機能の正しい把握方法、尿中活性体排泄率の正しい把握方法について言及する。